

旧会長のご挨拶



日本大学名誉教授
真下 清

ワールドカップ南アフリカ大会での日本チームの活躍には目を見張るものがありました。決勝トーナメントの第一戦でパラグアイに惜敗したことは本当に残念無念の極みでした。

私はサッカーには余り興味がなく、Jリーグの試合結果などには無頓着ですが、ワールドカップは別です。日本チームの試合はほとんどテレビ観戦しましたが、そのときに試合会場全体に通奏重低音として流れていたのが、南アの民族楽器のブブゼラの音です。以下は新聞記事（毎日、6.27）の受け売りですが、ブブゼラは元々ウシ科の哺乳類「クーザー」の角で作った笛が始まりだそうで、人を集めるときや動物よけのために鳴らした楽器で現地のズールー語で「おいで」という意味だそうです。

会場で鳴らされているプラスチックのブブゼラの多くが中国製で大量生産・大量消費の正にプラスチックなしではとても考えられない応援ラップでしょう。

さて、話は変わりますが、私はプラスチックリサイクル化学研究会（FSRJ）会長を6月8日に退任しました。平成18年5月に副会長、そして平成20年5月に会長に就任して4年が経過しました。特に会長職にあった2年間は会員の方々に誇れるようなことが何もできなかったことを率直にお詫びします。奥 彬先生が会長職にありました平成20年の会則改正によりプラスチック化学リサイクル研究会からプラスチックリサイクル化学研究会に名称が変更され、研究会の守備範囲が広がったことは誠に時宜にかなっていたといえましょう。しかしながら、研究会が本格的な学会としての機能を持つためには会員数や会員の意識等の面から難しい問題を包含しているような気がしています。

私が4年前に副会長に就任したとき、FSRJ会員の年齢構成が2極化していて、その谷間の橋渡しをする年齢の会員が少ないので、その役目を担ってほしいとのことでお引き受けした経緯がありましたが、中込秀樹会長、多賀谷英幸副会長、井田久雄副会長、吉岡敏明幹事長の新体制に引き継ぐことができてうれしく思っています。

FSRJが現状から脱皮することは必要と言えますが、他の関連学会との関係を含めて、具体策を新体制の下で検討頂きたいと考えています。一過性である大量生産・大量消費のプラスチック製のブブゼラは論外としても、大量消費をしている生活必需品のプラスチック製品から生じる廃プラ問題にどう向き合っていくのか、技術、経済性、資源、環境の面から、これからはすべて相互に関連していますが、原点に立ち戻って再検証することが必要と考え、その先導者としての役割をFSRJが担うことを切に願っています。

最後に会員の皆様のご健勝とご活躍を祈念しつつ、ご協力頂いたことに心より感謝申し上げます。

以上